

平成30年度 病害虫発生予察情報(美濃地域) 5月予報

【 麦類 】

赤かび病

本年のさとのそらの出穂は4月11日(11/6は種:農業技術センター作物部調べ)と平年(4/17)より早くなりました。本病の発生には、開花期～乳熟期の気温や降雨、湿度が大きく影響します。本年の気象は4月中旬から下旬にかけて、第一次伝染源となる子のう殻形成や子のう胞子飛散に好適な日とされる曇雨天が続いたため、ほ場内の菌密度は高いと考えられます(表)。今後は降雨日が続くと穂での発病や発病穂内での二次感染が懸念されるため、開花盛期(出穂期から7～10日後)とその10日後の2回防除を必ず実施して下さい。

なお、出穂期は、品種やは種時期、環境条件の違いにより大きく異なる可能性がありますので、ほ場の出穂・開花状況を確認し防除日を決定してください。

○主な病害虫の発生時期及び防除時期(5月)

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項	
			1旬	2旬	3旬	4旬	5旬	6旬		
水 稲	生育(コシヒカリ)			< 田 植 え >					・田植え 5/10予定(農業技術センター)	
	イネミズゾウムシ	少	越冬世代成虫>						・箱施薬を実施する。	
	ヒメトビウンカ	並			<越冬世代幼虫>			<越冬世代成虫>	・ほ場周辺や畦畔の雑草処理を実施する。 ・※幼虫発生最盛期は小麦ほ場内	
	防 除 適 期		▲ (箱施薬) イネミズ・ヒメトビ							
麦 類	生育(さとのそら)	早							・出穂期 4/11(平年 4/17:農業技術センター)	
	赤 か び 病	やや多	< 第 二 次 感 染 期 >						・開花盛期(出穂期から7～10日後)およびその10日後の2回防除を実施する。	
	防 除 適 期		▲赤かび病(2回目)							
か き	生育(富有)	早			<開花期>				・展葉期 4/1(平年 4/10:農業技術センター)	
	岐阜西濃 中濃	多 並	<第1世代幼虫>						・幼虫発生初期の防除を徹底する。 ・岐阜・西濃では、ミツバチの導入時に注意し防除を実施する。	
	防 除 適 期		▲ ~							
	フジコナカイガラムシ	並	越冬世代幼虫(越冬場所からの移動) >						・昨年の多発箇所を確認して重点的に防除を実施する。	
	防 除 適 期		▲							
な し	生育(幸水)	早							・開花最盛期 4/4(平年 4/13:農業技術センター)	
	黒 星 病	やや多	初発生>						・薬剤抵抗性がつきやすいため同一系統薬剤の連用は避ける。	
	防 除 適 期		~ ▲							
果 樹	カメムシ類	少			< 越 冬 世 代 成 虫 >				・サクラ果実吸汁率調査など、今後の情報と発生に注意する。	
	防 除 適 期									
茶	生育(やぶきた:池田)	早	摘採期>							
	生育(やぶきた:白川)	早			< 摘 採 期 >					
	岐阜西濃 中濃	並 やや多	<越冬世代成虫>						・ふ化期～若齢幼虫期の防除を徹底する。	
	防 除 適 期		▲ 岐阜・西濃							
施 設 野 菜	ト マ ト	灰色かび病	少	調査ほ場では発病は認められない。曇天が続く場合は発生すると予測される。(発病果率 0.0%)						・発生初期の防除を徹底する。
		葉かび病	少	調査ほ場では発病は認められない。曇天が続く場合は発生すると予測される。(発病小葉率 0.0%)						・施設内が多湿とならないよう、湿度管理に注意する。特に夜間は多湿となりやすいため注意する。
	キ ュ ウ リ	べと病	少	調査ほ場では発病は認められない。曇天が続く場合は発生が増加すると予測される。(発病葉率 0.0%)						・葉かび病では、薬剤が確実に葉裏にかかるよう丁寧に散布する。
		褐斑病	少	調査ほ場では発病は認められない。罹病性品種では発生に注意する。(発病葉率 0.0%)						・うどんこ病では、過度の乾燥は発生を助長するため注意する。
		うどんこ病	少	調査ほ場では発病は認められない。気温上昇に伴い発生すると予測される。(発病葉率 0.0%)						

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1旬	2旬	3旬	4旬	5旬	6旬	
野菜	コナガ	並							・薬剤抵抗性がつきやすいため同一系統薬剤の連用は避ける。 ・ アブラムシ類 定植時に粒剤施用する。
	アブラムシ類	少							
	防除適期								

注1) ▲、▲～▲：防除適期

注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注3) 用語の定義及び基準については「発生予察事業の調査実施基準」に準ずる

麦類赤かび病

表 4月の麦類赤かび病感染好適条件出現状況

日	降水量 (mm)	気温(°C)			湿度(%) 平均	子のう殻 形成	子のう 孢子飛散
		平均	最高	最低			
01	--	16.6	22.7	10.2	58		△
02	--	19.1	25.7	12.6	54		△
03	--	19.9	26.8	13.7	52		△
04	0.0	18.9	27.0	12.0	55		△
05	0.5	14.9	20.6	9.4	61	●	
06	13.0	16.0	19.3	12.8	87	●	◎
07	0.0	10.5	13.5	5.9	59		▲
08	0.0	7.0	10.7	4.1	60		
09	0.0	9.4	15.0	3.7	61		
10	--	13.3	21.0	5.2	54		
11	4.0	15.1	17.3	12.9	71	●	◎
12	--	17.7	23.8	12.6	49	●	◎
13	--	14.3	18.7	10.6	34		△
14	41.0	14.1	19.0	10.6	64	●	◎
15	27.0	13.2	17.1	10.3	69	●	◎
16	--	14.1	20.4	8.5	46	●	▲
17	14.5	13.4	17.9	10.5	70	●	◎
18	19.0	15.9	22.6	12.6	72	●	◎
19	--	17.1	24.2	10.0	59	●	◎
20	--	19.3	27.0	11.5	47		△
21	--	19.8	27.1	12.3	54		△
22	--	21.1	29.7	13.5	52		△
23	0.0	20.5	25.9	15.1	59		△
24	47.0	18.3	20.0	16.3	84	●	◎
25	78.0	18.8	23.6	13.2	69	●	◎

※岐阜アメダスデータによる。

1) 子のう殻形成好適日

●：降雨直後(当日および翌日)かつ平均気温が13°C以上であった日

2) 子のう孢子好適日

◎：濡れ条件と温度条件を両方満たした日

▲：濡れ条件を満たしたが、温度条件を満たしていない日

△：濡れ条件を満たしていないが、温度条件を満たした日

※濡れ条件：降雨直後(当日または翌日)または湿度が80%以上
温度条件：最高気温が15°C以上かつ最低気温が10°C以上

なし黒星病

本病は、前年の落葉上に形成される子のう胞子と腋花芽基部に形成される分生子が第一次伝染源となり、葉や果実に発生します。

葉への感染しやすさは豊水が最も高く、次いで長十郎や幸水が感染しやすいとされています。果実への感染は幸水が際立って高く、特に開花直後から20日後頃までの幼果期、開花60～85日後の果実の生育後期は感染しやすいとされています。

昨年は秋期に気温が高く、降水量が多かったことから、ほ場内での菌密度は高いと思われます。

重要な防除時期は、落葉から飛散してきた胞子による伝染や芽基部病斑の胞子形成抑制を目的とした開花直前および満開約10日後と果実肥大期の開花65日後(6月下旬頃)～開花85日後(7月上旬頃)です。予防防除を徹底し、発生が認められるほ場では必ず有効な薬剤による防除を実施してください。

また、果実肥大に影響のない程度に罹病部位を除去し、秋以降には、秋期防除に加えて落葉処理と罹病部位を除去して、ほ場内の菌密度を下げてください。

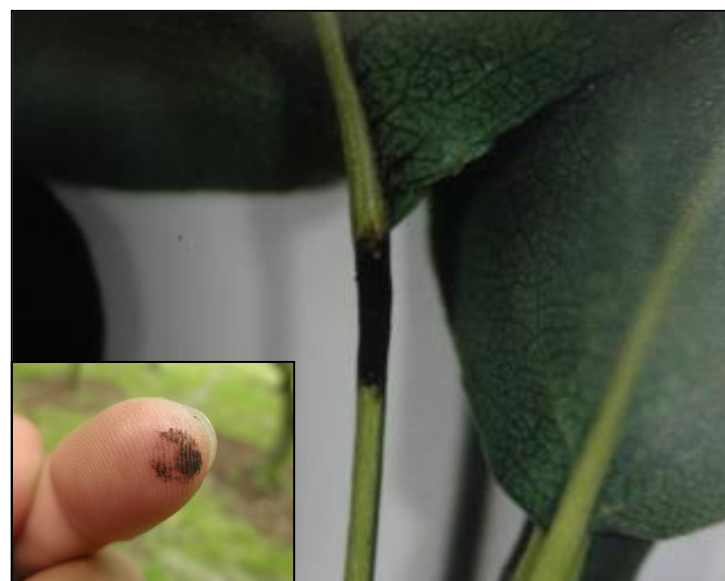


写真 葉柄部に形成された胞子(指で擦ると黒色の胞子が付着します)

農薬の安全使用に努めましょう！！

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1カ月予報(名古屋地方気象台 4月26日発表)

向こう1カ月の気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないと予想されています。天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸729 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767